

人生無根蒂
分散逐風轉
落地爲兄弟
得歡當作樂
盛年不重來
及時當勉勵

瓢如隔上塵
此已非常身
何必骨肉親
斗酒聚比隣
一日難再晨
歲月不待人

解説 雜詩とは、無題詩であつて、その時々 of 感想などを詩にうたったものである。

語釈 ※何必Ⅱ「どうしてゝである必要があるのか、いやないのだ」反語。※骨肉親Ⅱ血を分け合つた人々。肉親。身内。親戚。※斗酒Ⅱ大盃になみなみについだ酒。※比隣Ⅱ隣近所の人びと。※聚Ⅱ集

雜詩（陶潜）

人生 根蒂 無し

語釈 ※根蒂Ⅱ根底。根もとの意。※瓢Ⅱ風に吹かれて動く状態。※階上Ⅱ路上の意。※常身Ⅱ永遠に変化のない身体。※落地Ⅱこの地上に生まれ落ちて。※為兄弟Ⅱみな兄弟となつたようなものである。

語釈 ※何必Ⅱ「どうしてゝである必要があるのか、いやないのだ」反語。※骨肉親Ⅱ血を分け合つた人々。肉親。身内。親戚。※斗酒Ⅱ大盃になみなみについだ酒。※比隣Ⅱ隣近所の人びと。※聚Ⅱ集

瓢として 陌上の 塵の 如し

分散して 風を 逐うて 転ず

此れ 己に 常の 身に 非ず

地に 落ちて 兄弟と 為る

何ぞ 必ずしも 骨肉の 親 のみ ならん

歡を 得ては 当に 樂しみを 作すべし

斗酒 比隣を 聚む

盛年 重ねて 来らず

一日 再び 晨 なり難し

時に 及んで 当に 勉励 すべし

歲月は 人を 待たず

通釈 人の一生はしつかりとつなぎとめておく根もともない。それは、風に吹かれて飛び散る路上の塵のようなものだ。風のまに吹きとばされ、ころがり行くこの身体は、もとより一定不変のものではない。

この世に生まれ落おちれば人間はだれもが兄弟のようなものだ。どうして骨肉を分け合つた者だけが、親しいのであろうか。だから、樂しみのないこの憂き世では、歡びを得たなら、当然樂しみをつくすべきだろう。一斗の酒でもあつたなら、隣近所の人びとを集めて、大いに樂しみ飲もうではないか。若い時代は二度と来ないし、一日のうちには朝は二回は来ない。よい機会をのがさずに、充実した時を過ごすようにつとめ励むべきだ。歲月はどんどん流れ去り、人を待つてはくれないのだから。